

此頃氣のついた事二つ三つ

附屬幼稚園 清水光子

事新しく言ふ迄もない事ではあるが、この緊張、緊迫した一日／＼の中での幼稚園で、氣をつけたと思ふこと、斯うしたいと思ふことも多いが、私の乏しい経験で氣のついたまゝ思ひつくまゝを二つ三つ記して皆様の御批評を仰ぎ度いと思ふ。

一、健康について

日光に當てること。—榮養その他兎角充分を期し難いのであるからまづ出来るだけに當るやうに度い。平凡なことであるが今こそ暑からず寒からず日なたで遊ぶにいい頃である。自由遊びの時はもとより、遊戯やお仕事、おべんどうも出来るだけで、日なたでさせ度い。お仕事の爲に内遊びの時間が多くならないやうにしたい。外での時間が多いと管理上からは眼を長く使はねばならない點で先生としては骨が折れるがそこを上手に、出来るだけ日にあたるやうにしたいと思ふ。

姿勢——「背中を伸ばせよ」と時々注意して正しい姿勢の習慣をつけたい。お仕事、おべんたうの時特に氣をつけてきちんとした姿勢になれるやうにし度い。

歩き方——正常歩運動といふのがあつたが、子どもの中から正しく歩くやうに、すぐ走り歩きチヨ／＼歩かさないやうに、急ぎもしないのに走り出してしまひ度い年齢でもあるけれど、せか／＼いら／＼とした様子で歩くことのない、これも習慣をつけたい。

二、生活訓練の中で

先を争はないこと——一列勵行と子ども達も言つてよく並ぶ、が並んでゐ乍ら先を争ふことがあるのを氣をつけたい。押したり先の人がおそいと云つて怒つたり、並ぶ順を争つたり、子どもの自己中心をさらけ出してゐるのはみにくい。

おべんどう——今時好ききらひやこぼした

り残したりを氣をつける迄はないがおべんどうに關心を持ちすぎないやうにしたいと思ふ。幼稚園の一日の中で一番楽しい時の一つはおべんどうなのであるが自分のもつて來たものをふいちやうしたり、人のものを羨ましがつたりする事のないやうにし度い。これは中々面倒であるけれど何より自分のいたゞくおべんどうを感謝するやうに言ひきかせてお行儀のよい食事をさせたいと特にこの時代の子どもだからこそ食事のお行儀として正しく明るくさせたいと思ふ。兵隊さん、お父様お母様ありがたうを言ふのもいたゞきます、ごちさうさまも心から言ふ習慣をつけたい。

言葉づかひ——子どもらしくしかもいいいな言葉づかひをさせ度い。大人の氣持態度は何につけて子どもにうつり易い。この頃のやうに大人の世界がピンと張切つてゐる爲、激しくかたくなつてゐるので言葉づかひが荒つぽくなり易い。子どもがそのまま荒つぽい言葉や態度にならないやうに、人に對して穏やかな言葉をいつも使ふやうに子どもの中から氣をつけたいと思ふ。

物を大切に——これも今更言ふ迄もなく大

切にしなければならぬのであるが、それが一歩進んで大切にすることの餘り、自分のものを確保したいといふ方が先になつて子ども乍らにまことに世智辛いと思はれるやうな事が時々見受けられる事は悲しい。自分の分をしまつておいて人に貰つたりするやうな事が無いやうにし度いと思ふ。

落付いて物を見る——何事も粗雑になり易いこの頃機會ある毎に自然物に親しませて物をみる態度を養はせ度いと思ふ。石の下

戦時保姆の職責の重化と擴大

倉橋惣三

に蟻の巢があつたらみんなを呼んで来てみせやう。木の下にくもがはつてゐたらみるとか、小さい草がさいてゐるのを見るときか興味のあるものからいつまでもあきずにみてゐるやう、みてゐる時はさまたげず、いろ／＼興味を引出すやうに話し合ひひやみせるやうにしたい。又自然物ばかりでなく機械でも何でも機會ある毎にみるやうにし度い。心に餘裕のある生活態度はこんな所からも養はれるのではないかと思ふ。

戦時において保姆諸君の職分が、先づその擔當の幼児達のために保育の周到をつくすにあることは言を保たない。しかも之は平時と同じであるが如くして、事實上は決して平時と同じでない。幼児の生活そのものが平時と同一でないからである。戦時下の家庭生活、戦時下の社會生活につれて戦時下の幼児生活は、保育の一般の周到を必

要とすることが少なくない。健康上の點も、性情上の點でも、家庭を補ひゆかなければならぬことが多々あり、又社會的變化に善處しなければならぬことも少なしとしないであらう。更に戦時下保育の時局性を十分に正しく發揮せしめるために、保姆諸君の逞しき努力の必要が要求せられてゐる。決して、平時のまゝではあり得ないのである。

しかも今日、幼稚園保姆諸君の職責は、單に日々の戦時保育を十全ならしめることに止まらず、常に身を以て幼児を護つてゐなければならぬ大覺悟を伴ふものである。空襲必至の聲を人々はそれ／＼の立場においていろ／＼に聞くのである。國民として國家的に警戒準備するのは共通であるが、銘々の職責によつてその心に備ふるところが異らなくてはならぬ。主婦は家庭防空の擔任者として、吏員は特設防護團員として、警防團員は町のために村のために、而して保姆諸君はその擔當の幼児達のために、常に身を以て備へてゐるのである。一旦敵襲に遭ふ時、己れ死しても幼児を護らなければならぬのである。毎日の幼稚園の通勤が、不斷にこの覺悟を以て、行はれてゐるのは、戦時下保姆の特有なる、そして最も重大なる職責である。親も國家も、保姆の職責に信頼してのみ、この苛烈な決戦下の保育施設を繼續してゐるといつてもよい。

三

しかも之れら職責は、幼稚園に職を奉ずるものとしての當然本来の任務である。いはゞ保姆諸君の本業である。ところが茲に